
ポケットモンスター とある少年の学園生活

龍神グラフィ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ポケットモンスター とある少年の学園生活

【Nコード】

N5343X

【作者名】

龍神グラフィア

【あらすじ】

ここはホウエンのはずれの島にあるトレーナーズスクール、エレメント学園！
そこにイツシュのチャンピオンマスター、イガラシトウヤがやってきた！

かれは此処で、1からトレーナーとして鍛えることにした。

彼はいったいどんな学園生活をおくるのであろうか！

作者の更新は亀より遅いです。多分。それでも良かったら読んで
ください(´・`・´)

始まる

ここはホウエンのはずれの島にトレーナーズスクール 名称エレメント学園、
今ここに1人の少年が来ていた。

『ここがエレメント学園か、噂通り広すぎるだろ、ここ……
それより、今日から始まる学園生活が楽しみだな！。さて
と入学式の場所はどこかな？ あ！あそこにいる人に聞いてみよ
う。』

トウヤがみたところには、青い髪を腰まで伸ばしている女子がいた。
トウヤは女子に話しかけた。

『すみません。聞きたい事があるのですが。』

『どうかしたの？もしかして、新入生？』

『はい、新入生のトウヤといます。入学式の場所はどこでしょう
か？』

『敬語は苦手なんだ。普通通りに話してね。入学式の場所は……
そつだ！入学式の場所まで案内してあげる。』

『ありがとう。』

『私は二年生のアマゾラアオイ。よろしくね。あれ？君の名前、ど
こかで聞いたような、あ……
イツシユのチャンピオ

ンマスター、イガラシトウヤ！

なぜ君が此処に？』

『あちゃーばれたか、俺はまだ、チャンピオンの資格はない、トレーナーとして1からやり直すことにしたんだ。』

『それじゃ、あのポケモン、伝説のポケモン、レシラム見せて！持っているんでしょ！』

『ごめん、レシラムは強すぎるから
普段の手持ちには入れていないんだ。』

『そんなー、じゃあまた今度ね！
あ！入学式の場所まで案内するね』

『ああ、頼む。』

こうして入学式を無事に終えたトウヤ、この少年はいったいどんな学園生活をおくるのであろうか、

紹介！（前書き）

キャラ紹介です

紹介！

名前 イガラシトウヤ

年齢 15歳

身長 179cm

容姿 bwの主人公

3年前、アデクを倒してイッシュのチャンピオンマスターになった。レシラムは旅先で仲間になった。普段の手持ちには入れていないポケモンと会話することができる。本人のトウヤでさえ知らない……

このエレメント学園に入学してきた。なぜ入学したのかというと、また1からトレーナーとして鍛えることにしたらしい、でも他にも理由があるらしいが……

使用ポケモンのダイケンキは、最初のパートナー。

使用ポケモン

ヒヒダルマ

サーナイト

ダイケンキ

オノンド

ラティオス

他にも色々なポケモンを持っている

名前 アマゾラアオイ

年齢 17歳

身長 167cm

容姿 フェアリーテイルのウェンディ

エレメント学園の二年生

トレーナーとしての実力は学園の中ではトップクラス

トウヤが学園でさまよっているところを助けた。

その容姿から、とても人気が高い

使用ポケモンは特にドラゴンタイプと飛行タイプ、特にウォーグルはお気に入り

使用ポケモン

ウォーグル

サザンドラ

??????

紹介！（後書き）

次はポケモンの紹介です！

トウヤとアオイの手持ち紹介

トウヤの手持ち

ダイケンキ

トウヤの最初のパートナー。

ミジュマルから頑張って進化した。

パーティのリーダーみたいな役割をもつ。普段は冷静だが、怒るとハイドロカノンを撒き散らす。

性格は冷静

技 シェルブレード ハイドロポンプ ハイドロカノン
など

ヒビダルマ

一年前仲間になった

パーティの中では一番の腕っぷし、何でもかんでもぶち壊す

その体からくりだすフレアドライブは大抵のポケモンは耐えられない。恐ろしい。

性格はいじっぱり

技 フレアドライブ アームハンマー 地震など

サーナイト

トウヤのパーティの中では唯一の女の子。いこごちが悪そう・・・
テレパシーで人と会話ができる。 ちなみにトウヤに恋をし

ているでもまだ、その思いは告げていない。実力はまあまあ

性格はヤンデレ？

オノンド

トウヤの手持ちの中では、まだ新入り。オノノクスになりたくてレベルを頑張っただけ。頑張り！ちなみにも甘いものが大好き。

性格はやんちゃ

技 逆鱗 ドラゴンクロー かわらわりなど

アオイの手持ち

ウォーグル

アオイが最初にゲットしたポケモン

その体から放たれるブレイブバードはとても強力。

性格はおとなしい

技ブレイブバード 恩返し シャドークローなど

サザンドラ

アオイがイツシュに旅行に行ったとき、色ちがいのサザンドラ、当時はモノズゲットした。普段は優しいが怒ると、ダイケンキみたい流星群を放つ

性格 おとなしい

技 流星群 龍の波動 悪の波動 火炎放射など

バトル

今、アオイに学園の中を案内してもらっている。．．．．．でもまわりからの視線が痛い。多分、アオイは可愛いから学園で人気があるのだろう。特に男子の殺気が。

そして今、食堂にいる

『ここは食堂だよ。いつも朝、昼休みが特に賑わっているんだ！ここはオムライスが美味しいんだ』

『俺は卵は嫌いなんだよ。昔嫌なことがあってね．．．』
やっぱりあれはトラウマだな、うん。

『そうなんだ。まあ、ここはいろいろな物があるから楽しいよ。』

そう、俺達が話していると、1人の男子生徒が近づいてきた。みたところ上級生のようだ。

『おい貴様、俺のアオイに近づかないでくれないか？』

上級生はそう言うてきた。どういうことだ？

『アオイ、これはいったい？もしかしてお前の彼氏？』

『そ、そんなわけないでしょ！！この人はいつも私にちょっかい出してくる変態だよ！』

そうアオイが言うと、

『アオイ、俺はただお前と一緒にいたいだけ、変態はないだろ。』

『私はあなたの物じゃない！いいかげんにして！私が誰と行動したって別にいいでしょ！』

アオイは怒鳴るようにいった。

上級生は……

『お前は俺と一緒にいればいいんだよ、そんな1年と一緒にいても楽しくないだろ。こっちにこい！！』

そう言うと アオイの腕を引っ張る

『やめて、離して！』

我慢できなくなった俺は、

そいつの腕を強い力で握っていた

『いてて』

『おい、あんたいいかげんにしろ！アオイがいやがっているだろ！』

『う、うるさい、こうなったらポケモンバトルだ！俺が勝ったらアオイに近づくな』

『いいだろうただし、俺勝ったらアオイに近づくな！』

そういつて俺達はポケモンバトルをすることになった。

審判ロボ『これから、ポケモンバトルを開始します！そして使用ポケモンはお互いに1体！では初め』

『いけ、サーナイト、バトルオン！』

『私がバトルするのは久しぶりね、トウヤ、』

そう、こいつはサーナイト、テレパシーで人と会話することができ
る。俺の手持ちでは唯一の雌だ

『ああ、頼むぜサーナイト！』

『わかった、私が勝ったらデートしてくれる？』

『考えておく。』

相手はムクホークのようだ。

『ムクホーク！電光石火！』

『サーナイト、かわして雷パンチ！』

『わかった。私に攻撃をあてようなんていい度胸ね。くらいなさい』

サーナイトは電光石火をかわして雷パンチをおみまいする。

『ム、クホ、』

ムクホークは一発で倒れてしまった。 え？

『ムクホーク戦闘不能！サーナイトの勝ち』

『ムクホーク！くそ、このやく立たずが！』

やくたたずだと？おれはカチンときた

『おい、あんた、その言い方はないだろう！ムクホークは一生懸命に戦った。やくたたずはあんたの方だ！出直してこい。それとアオイには二度と近づくな！』

おれが怖かったのか、上級生逃げていった。

『まさか、一撃で、君のサーナイト強いね、』

アオイが近づいてきた。

『あ、アオイ！多分あいつは近づいてこないだろう。でも気を付ける。』

『うん、わかった、ありがとう。私のために、それにしても君強いね、さすがイッシュリーグチャンピオン！』

『俺はチャンピオンじゃない、やめてくれ、』

そうおれが困っているとサーナイトが近づいてきた。

『約束通りデートしてね。』

『考えておくといいだろう』

そういつてサーナイトをボールに戻す

『じゃあ、案内の続きしてあげる！』

『ああ、頼む。』

俺達はバトルフィールドを離れた。

・・・これからどうなることやら、

バトル (後書き)

次回はトウヤのチャンピオン防衛戦！そして新キャラ登場！

ライバル登場（前書き）

残りの手持ちが判明、

ライバル登場

トウヤside

やあ、おれはトウヤだ。入学式から3日たった。

どうやら俺がイツシユリーグのチャンピオンだということが周りにばれてしまった。

なかには俺とバトルをしたがる人たちがいたり、サインを求められたりした。……すごく大変だった。

今俺はトレーニングをしている。これは俺が旅をしていた時もしていたことだ。今トレーニングしているのは俺のパートナーのダイケンキ。

『ダイケンキ！その木に向かってシエルブレード！』

『私に切れない物はない。』

見事に木は真っ二つに切れた。

『よくやった。今日はここまで。』
『そう言っつてボールに戻す』

ちなみにポケモンと話せるんだ。おれ、

とそこに1人の男子生徒が、
そいつの容姿は肩まで切り揃えた薄い金髪、目は青、みるからにイケメンだ

『君はトウヤだね』

『ああ、そうだが、お前は誰だ？』

『ああごめんごめん、僕の名前はダイキ　君と同じ一年生さ』
そいつはダイキと名乗った

『俺になんかようか？』

『いや、散歩をしていたら、きみを見かけたから声をかけてみたんだ。
それにしても君のダイケンキ凄いね。さすがチ
ャンピオン』

『チャンピオンはやめてくれ。俺はまだまだ未熟さ。』

『そうか、ごめん。あ、僕戻らなきゃ、彼女が待っているんだった。
じゃあね、トウヤ、今度バトルでもしよう！』

『ああ、バトルしようぜ。』

そうして俺は自分の部屋に戻った。

『あいつとはいいライバルになれそうだ』

そうしていると、ライブキャスターが鳴る

『あれ、この番号はシロナさん？ はいもしもし』

『あ、トウヤ君。久しぶりね。』

『・・・毎日かけているじゃないですか。』

『あら、そうだったかしら、』

『ところで何のようですか？シロナさん？』

『実は私のガブリアスをしばらく預かって欲しいのよ。』

『えっ？』

『実は私暫く、海底遺跡の調査があるから、暫くバトルできないし、あなたなら任せられるし、』

『え、それh』じゃあ、送っておくから』あ、ちょっと、、、切られた』

次の日

『ガブリアスよろしくな』

『ああ、暫くの間世話になる。』
今喋ったのはガブリアス、凄い威圧感だ、
とそこに一つのボールが開く。

『久しぶりです。ガブリアスさん。』

今喋ってたのは、俺の手持ちのラティアス、相変わらずガブリアスのことが好きみたいだ。

『ああ、久しぶりだなラティアス。元気にしていたか？』

『はい、私は元気です。ガブリアスさんは』

『ああ、俺は元気だ。』

『そうですか、これからはガブリアスさんと一緒にいられる！』

『ああ、よろしくな。』

これから大変な日になりそうだ。

人物&ポケモン紹介

ダイキ

身長178cm

容姿 肩まで切り揃えた薄い金髪

銀色の瞳

トウヤと同じ一年生、その容姿からとても人気が高い。
性格はとてもものんびりとしている。バトルのうではまあまあ
これからの期待。

使用ポケモンは珍しい特性を持つのが多い

使用ポケモン、 夢ハクリュー

夢シャンデラ

夢ムツクル

ラティース

トウヤの手持ち、シロナのガブリアスに好意を抱いている。
あまりバトルは出来ない

過去に兄であるラティースを亡くしている。

本人がいうには兄は色ちが良かったらしい。

ラティアス

トウヤの手持ち

過去に妹であるラティアスを殺されている

今は同じ過去をもつラティアスの兄がわりである。ガブリアスには
闘争心丸出し
さすがシスコン

妹の形見であるこころのしずくを持っているため特功は非常に高い

ガブリアス

シロナの手持ち、トウヤに預けられた。その体が放たれる逆鱗は強力
シロナとは長い付き合い、2年前トウヤのダイケンキと激闘を繰り
広げた。

ラティアスが自分に好意を抱いていることは知っている。

ダイケンキの眩き

やあ、皆様こんにちは、私はダイケンキ。

今日は学園が休みなので、トウヤに許可を貰って外出をしている。
さて何処にいくとしよう？

今、私は学園の外れにある湖にきている。ちなみに他の皆は、特訓や散歩をしている。

それにしても此処は良いところだ。

湖の水が透き通っている。こんな所は、トウヤと旅をしていた時は見たことがない。周りを見るとスワンナ達が泳いでいる。

おや？あそこにいるのはラティアスとガブリアス。あいつらも来ていたのか。

ちよつと観察でもするか・・・

『ガブリアスさん。此処はとても綺麗な場所ですね。』

『ああ、そつだな』

『あのおう、ガブリアスさんに訊きたいことが……』

『なんだ？』

『ガブリアスさんには恋人はいますか？』

『いや、いないな。でもどうしてそんな事を？』

『い、いやただ聞いてみただけです。（私にもチャンスがある！いつかガブリアスさんとあんなことやこんなことを・・・）』

『（すまないラティアス、まだ俺にはお前の思いには答えられない）』

『

ガブリアス、いいかげんに答えてやれ！ラティアスが可哀想だろ。でもラティアス、変な妄想はやめろ。

うん？あつちが何だか騒がしいな。行ってみよう。

そこにいたのは、同じ種族のミジュマルだった。何だか昔を思い出す。懐かしいな、あの頃はやんちゃだったな。

ミジュマルの傍には、あれはオニドリル、どうやらミジュマルにチヨツカイを出しているみたいだ。助けるとするか！

『おいおいまだ木の実持っているだろ？痛い目にあいたくないら出
しな？』

『い、嫌です！何であなたに渡さなければならぬんですか！！』

『お前のものは俺のものだろ？』

自分より弱いポケモンに何をやっているんだ！あいつ。許さない

『おい、お前、その子に何をやっている？』

『ああ？お前は黙っている！』

『その子は嫌がっているだろ、やめなければ、ハイドロカノンでお
前をぶちのめす！！』

『ああ？やってみろ！！ドリルくちばし！！』

そういつてドリルくちばしwkk繰り出してきた。

『よけて!!--』

『心配はない、ハイドロカノン!』

腹の奥に力を入れて、ハイドロポンプより威力があるわ技を繰り出す。

『うわーーーーー!』

オニドリルは吹っ飛んでいった、私を怒らせるからこうなるんだ。

『大丈夫かい?』

私はミジュマルにこう言う

『あ、ありがとうございます!あのう、あなたはダイケンキですよ
ね?』

『ああそうだが、』

『そうですか、ハイドロカノンを使ったのに反動がないなんて凄
ぎです!!--』

『これは、生まれつきなんだ。』

『そうなんですか。あ!お父さんが待ってる。いかにくちや!それ

では、
』

『 待て、また奴が来るかもしれない送っていこう』

『 あ、ありがとうございます』

で森のなかにきた。

『 じいじで平気です。ありがとうございます！』

そう行って去っていく。

さて戻るか。

そして学園に戻ってきた。

おや？トウヤと一緒にいるのは、一年生のアオイか。

『それでねそれでね、サザンドラってね』

『うんうんそれで？、あ、ダイケンキお帰り！』

『ただいま、とても楽しかったよ。』

『そうか』

『トウヤ君、思ったんだけどもしかして、ポケモンの言葉が分かるの？』

『あれ、いっていなかったっけ？まあ話せるよ。』

『凄い！！！いいな！』

『そうかな、』

『君は凄いね』

（彼なら、任せられる。）
『』

ダイケンキの眩き(後書き)

次回はラティ兄弟が暴走？

試験バトル

トウヤの手持ち入れ替え（前書き）

ラティ兄弟の権は今度で

今回から試験のシリーズに入ります

試験バトル

トウヤの手持ち入れ替え

『ラティオスさん！いきなり抱きつかないでと言ったでしょう！離してください！！』

今何が起こっているかというと、ラティオスがラティアスに抱きついている

『いいじゃないか！それと、ラティオスさんじゃなくて、「お兄ちゃん」だろ！』

『私はあなたのことを兄だと思った事は一度もない！！あなたには本当の妹さんがいたでしょう！』

やばい！！ラティアス駄目だよ。それを言っでは……

ラティオスは急に暗くなった
声を低くして

『ああ、いたよ。でも妹は人間に殺されたんだ！僕はいつか妹を殺した奴等を殺してやる！！！！』

やばい、ラティオスのトラウマが！

『ラティオス！戻れ』

セーフ、あとちょっとで、流星群が……

『マスター、すみません。つい抱きつかれたときにお尻を触られてしまったので、つい……』

『気にするな。触ったラティオスも悪い。しかし、ただ絶対このこととは言っない！』

『はい……』

次の日

『試験？』

今俺は教室にいるアオイと話している。

『そう、試験、月に一回試験バトルがあるんだ！トーナメント制で、1対1のシングルバトルで、先に全ての手持ちを倒した方が勝ち。知らなかった？』

『知らなかった……』

『もう、しっかりしてよ。ちなみに試験は一週間後。互いに頑張る
』。』

『ああ!』

『私とあたったら、容赦しないよ。』

『のぞむところだ!』

で俺は今手持ちの入れ替えをしているところだ。

たまには他のポケモンを使わないと。

『うーんと、イーブイシリーズ（ブイズ）で行くか。』

そういつて、パソコンからボールを転送する。ダイケンキ以外は預けてと

『出てこい、グレイシア、リーフィア、サンダース！』

グレイシア『久しぶりですね！トウヤ』

リーフィア『久しぶり〜』

サンダース『よう！』

ちなみにサンダースはオスでグレイシアとリーフィアはメスだ

『久しぶりだな、お前ら。』

『『』でも急にどうしたの？』』

『ああ、実は』

わけを話す

『なるほど、その試験に俺達を出してくれるのか』

『ああ、ほら、お前ら、暫くバトルしていなかっただろ。だからたまには』

『おい、しっかりしろよ』

『うー緊張する』

そして試験の日

『はい』 『(…うお)』

『試験頑張るぞ。』

『ありがとう』

『そう、ありがとうね、アジヤ。』

『君は余裕でいいね』

『そんな事はない、今回はメンバーを変えたからな!』

『・・・君は何匹ポケモン持っているの?』

『うーん、まあ30はいるな。旅していた時に捕まえたり。卵から孵したり』

『へー、凄いね。』

『だから今回は色々なポケモンを使おうと思う。対策されないように。』

『そっか、まあ頑張ろう。』

『それじゃ、またあとで』

うんと、俺のバトルフィールドはbか。

それじゃ行くか!!

試験バトル トウヤの手持ち入れ替え（後書き）

次回 試験バトル！ブイズ大暴れ！

お楽しみに

注意点！！

ええと、この作品の主人公、トウヤは強すぎるのではないかという意見が他のサイトでまして・・・

一応、回りの手持ちに合わせて強さを替えています。

ダイケンキとラティオス以外は1軍のメンバーではありません
ブイズについてはブイズは3軍くらいです。レベルで言うと40前後くらいです

シロナのガブリアスはバトルでは使いません。ただ預かっているだけです

トウヤはバトルではあまり負けなと思います。

その点を注意して読んでください。お願いします！

ちなみにあと新キャラは3人くらいです。

試験が終わったら、チャンピオン防衛戦があります。その時にまた一人くらい追加します。

お楽しみに！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5343x/>

ポケットモンスター とある少年の学園生活

2011年11月7日09時09分発行